

令和3年度授業力ブラッシュアップ研修会(中学校・国語)

今年度の授業力ブラッシュアップ研修会は、授業改善の視点として示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業はどうあればよいかをテーマに提案授業・講義・演習を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、映像資料等の配付による各校での研修となりました。今号では、中学校国語の研修内容について紹介します。

<中学校 国語>

「指導と評価の一体化を目指した単元構想及び授業の在り方を考える」

【プロジェクトチーム】

◎金ケ崎町立金ケ崎中学校	岩本 智美	教諭
奥州市立水沢中学校	佐藤 明子	指導教諭
奥州市立江刺第一中学校	小山 尚也	教諭

説明的文章の学習に関わる生徒の実態から「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える力」をさらに伸ばしていきたいという願いをもとに、「筆者が文章構成をどのように工夫しているのかを説明する文章を書く」という言語活動を設定した。

1 提案授業(5/6)

単元名：考えの道筋を説明しよう

教材名：『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ 第1学年

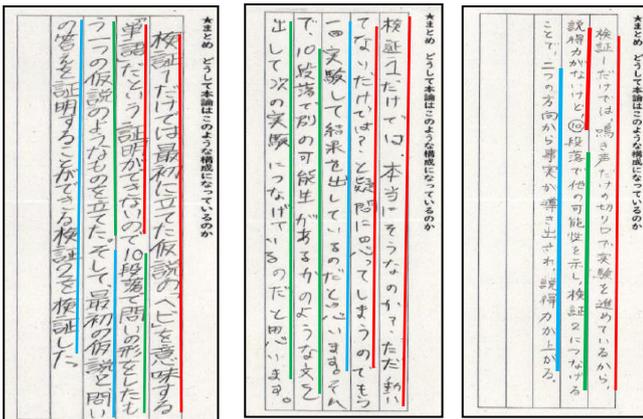
【視点1】「指導と評価の一体化」を目指し、単元及び授業における「おおむね満足できる」状況(B)の姿を明確にする。

指導者が単元及び授業で身に付けさせたい力を明確にもって単元や授業を構成することにつながりました。また、生徒の学習状況の把握や個別の支援を適切に行うことができました。生徒が、文章の構成について自分の考えを書く際には、まとめる際の視点「おおむね満足できる状況」を、大型提示装置にて提示することにより、これまでの授業を振り返りながら、本時のねらいに沿って自分なりの考えを書くことができました。生徒は示された視点をもとに文章の構成を理解し、自分なりの言葉でまとめました。



★まとめる際の視点★

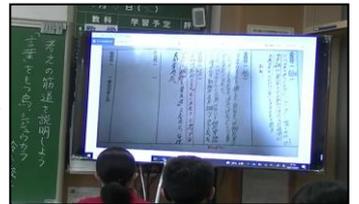
- ・書き出しは「検証1だけでは、」
- ・⑩段落の役割を説明する
- ・検証2があることを説明する



【おおむね満足できる状況のワークシート】

【視点2】生徒が「どのように学んだのか」「どのようなことが分かったのか」を振り返り、自己評価を自分の学びの調整に活用できる場面の設定を行う。

導入では、前時の振り返りのうち、本時につながる学習内容のうち、本時につながる学習内容「根拠をもって構成を捉えている」「⑩段落の役割」について書かれているものを大型提示装置で紹介することにより、生徒に「本時の授業で何ができればよいのか」を理解させ、見直しをもって学習を進めることができるようにしました。



2 助言・講義

講師：県南教育事務所 湯澤 雅讓 指導主事

(1)「指導と評価の一体化」を目指した単元構想について
単元構想の際には、これまでの生徒の学習状況をノートや、ワークシート等をもとに的確に把握し、身に付けさせたい力(指導事項)を明らかにすることが大切である。そのために、教材の特性を明らかにするための教材研究と、単元のゴールで何をどのように書かせるか等、扱う指導事項に基づいて、生徒のどのような記述や発言が「おおむね満足できる」状況なのかをつかんでおくことが必要である。

(2) 振り返りの視点について

必ずしも毎時間、評価と振り返りの場を位置づける必要はない。単元の終末で達成したい生徒の姿に関わる時間において、確実に評価と振り返りを行うことが重要である。振り返りシートやノート等を適宜回収し、よかった点等を記入して返却する等、生徒自身が自分の学びの達成度を振り返り、次の学びへつなげていくことが大切である。

単元全体の振り返りは確実に行うことが必要である。その際には、「①何ができるようになったのか。」「②どのような学習方法で、課題を解決したのか。」の視点で振り返らせたり、生徒がどこまで目標に到達できているのかを単元の終わりに伝えたりして、身に付いた力を生徒に自覚させることが求められる。

参加者の声(一部抜粋)

- ・単元と授業の中での、「おおむね満足できる」状況を明らかにしておくことが、指導の改善に有効であると改めて理解することができました。
- ・評価が先にあると、そのためにどんな授業にするのか、という考え方を忘れずに、授業を作っていく。